

# 作業療法の未来のために

～日本作業療法士連盟は(一社)日本作業療法士協会と共に～

## 連携を深めながら、一歩ずつ確実に前進



平成 23 年 10 月

上段左から、中村春基協会長、日本理学療法士連盟 山根一人副会長、  
二神雅一連盟副会長、谷隆博連盟副会長

下段左から、柚木道義衆議院議員(厚生労働委員会理事)、公益社団法人日本理学療法士協会 半田一登会長、  
一般社団法人日本言語聴覚士協会 深浦順一会長、山口和之衆議院議員(厚生労働委員)



平成 24 年 2 月

左から、中村春基協会長、荒木良夫大分県連盟会長、  
足立信也参議院議員(厚生労働委員)、杉原素子連盟会長



平成 23 年 11 月

左から、比留間ちづ子連盟副会長、杉原素子連盟会長、山口和之衆議院議員、  
谷隆博連盟副会長、長井陽海関東・甲信越ブロック幹事

### 会員数

## 2012年4月10日現在

# 716名

発行:日本作業療法士連盟 事務局  
編集:日本作業療法士連盟 広報部  
〒583-0021  
大阪府藤井寺市御舟町 1-63  
藤井寺オフィスビル 2-F  
TEL 072-931-7887  
FAX 072-931-5200

# 一般社団法人日本作業療法士協会会員の皆さんへ 連盟からのメッセージ

## 活動の成果と今後に向けて～協会会員の皆様に伝えたいこと～

2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、日本の少子高齢化対策として、社会保障制度のより一層の整備が急がれています。このような状況において、作業療法士が活用され、国民の健康的な生活に寄与できることが、私たちの使命であり、喜びといえます。そのための施策の充実・推進のために、日本作業療法士連盟(以下、連盟)は日々活動しています。

昨年の活動の中で、とりわけ成果があったことといえば、(一社)日本作業療法士協会(以下、協会)との連携を強化できたことがあげられます。協会からは配布物への同梱、協会ニュースへの記事の掲載、学会ブースの設置などの協力をいただき、それぞれのホームページにもお互いのリンク付けがなされるなど、広報活動をとおしての協力関係を目にしていただいた協会会員の方も多いのではないのでしょうか。そして、連携の結果のひとつとして、厚生労働省からのヒアリングといった協会から行政に対する発言の場で連盟からの意見が反映できたことも、大きな成果といえます。

少しずつではありますが、連盟の活動の成果はあがってきています。しかしながら、「協会との有機的な協力関係づくり」や「医療・福祉の他団体・議員等のネットワーク構築」を進めるためには、まだまだ会員数は足りません。会員数を増加させるには何が必要か、連盟役員の中でも継続して議論を重ね、今後の発展に必要な施策の企画・運営を推進しています。

政策への作業療法の位置づけを実現していくことで、冒頭に述べた「国民の健康的な生活に寄与する」という協会と連盟の共通の目標達成につながることをご理解いただき、ぜひ連盟にご入会ください。



会長 杉原素子



東海・北陸ブロック幹事  
米田尚

## 若い作業療法士に向けて

若い作業療法士に政治に関心が持っている人はどれだけいるのでしょうか？ほとんど皆無ではないかと思えます。でも消費税が上がることには少なからず関心があるはずでは。

社会保障費と税の一体改革で議論されている事は、皆さん周知されていると思います。一方では、社会保障費の中身についてどれだけの方が理解されているかは疑問である。現在、作業療法士が働いている施設では、少なからず社会保障費の中から医療報酬や介護報酬が支払われております。その中の収入が皆さんに払う給与の原資になっている事を考えたことがあるでしょうか？

報酬の基準となる施設基準や人員基準は、厚生労働省内の委員会等で決定されますが、作業療法士として参画されている人はごく僅かで、作業療法士という立場だとほぼいないのが現状です。現場の意見や現状を訴える機会・場所が少ないのが事実で、ここに力(政治も含む)関係が生じています。

職能団体として、日本作業療法士協会は、作業療法の学術的、技術的にも寄与していることは明確であるもののこれからの作業療法士の働く場の拡大や地位向上のためには何が必要か。その一つとして政治や厚生労働省に戦略的に働きかけるツールが必要不可欠となる立場として連盟の存在価値が生まれてくる。作業療法の発展には、協会と連盟が役割分担をして機能していくことが、今後の作業療法士の働く場の確保と地位向上につながると考えております。

## なぜ今、連盟活動が必要か？

私達は、日々患者さんや利用者、そしてそのご家族など社会で弱い立場にある方に「作業療法」というサービスを提供しています。

サービスと制度を組み合わせると自立や在宅復帰にうまく繋げることもあるかも知れません。その中で「こんなものがあったら良いな」とか「こんな制度があったら家に帰れるのに」とか思うことは無いでしょうか？また、思っても「もういいや」とか「仕方がないから」とかあきらめたりしてないでしょうか？

私が住むK市でこういう事がありました。一昨年ですが、高齢者福祉を考える検討会が開催されメンバーの選定がされましたが、リハ分野からはPTだけで良いだろうとされOTは外されそうになりました。その際、K市の市会議員に作業療法士がいましたのでOTの必要性を再度検討していただきメンバーに加わり検討会にOTとしての意見を発信する事ができました。

制度を変えるには、国政・都道府県政・市町村政など訴える場は違いますが、政治の場に挙げていかなければ議論さえされません。

日本作業療法士連盟はまだ始まったばかりであります。着実に皆様の声を議論の場を持っていく団体として活動していきます。「数は力」と言った政治家がいましたが、多くの皆さんと共に活動することで「仕方がない」ではなく「未来を変えていく」団体になりたいと思います。



渉外部長・九州ブロック幹事  
座小田孝安

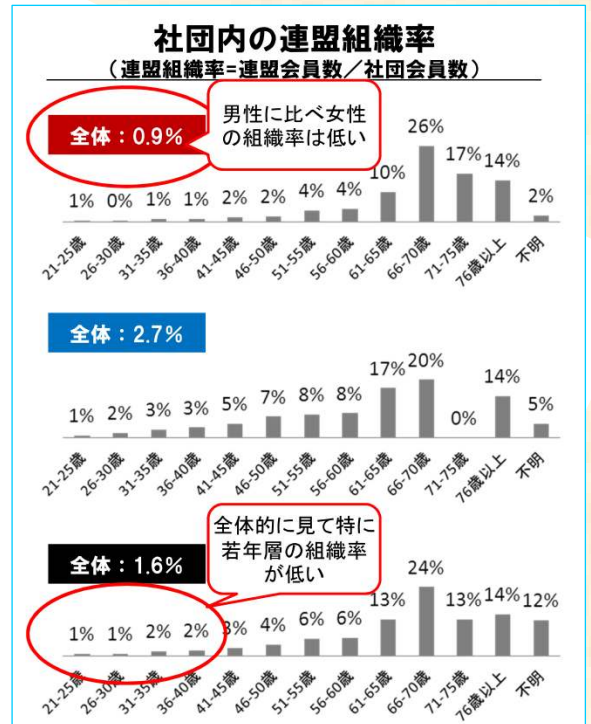
# 協会との有機的な協力関係に向けて

平成 23 年秋、日本作業療法士連盟（以下、連盟）は会員確保に向けたコンサルタント調査を外部の専門家に依頼。他団体調査や事務局からのヒアリングを元に、連盟の現状分析と今後の施策案が報告された。

平成 23 年 12 月 17 日の（社）日本作業療法士協会（以下、協会）との合同会議において、上述のコンサルタント調査結果を提示し、協会へ協力を依頼。連盟と協会が政策実現に向けての役割分担を明確にし、有機的な連携と協働を行っていくことで合意した。



写真左：平成 23 年 12 月 17 日 協会・連盟合同会議の様子  
写真右：同会議、杉原素子連盟会長と中村春基協会長



トランスカイ(株)コンサルタント調査結果より。  
連盟では協会が多数を占める若年層および女性層の入会が少なく。



## 作業療法士が目向けるべき新たな展開 それが「政治力の向上」

わが国で作業療法士の養成が始まって(1963~)半世紀になろうとしている。初期の 20 年間の協会会員数は牛歩のごとくの任意団体であった。1985 年に社団法人化し社会的に認知される団体の仲間入りをしたが、会員数は 1000 名に満たない弱小団体で、政治的には相手にされないような状況であった。臨床現場における会員の活躍や真摯な仕事ぶりは対象者から、社会から評価され、さらにリハビリテーションの必要性、重要性は年々高まり、その後の 20 年では医療ばかりでなく保健・福祉の領域にも広がり、今では地域・在宅でのサービスが当たり前のように実施されるようになってきた。充実したリハビリテーションサービス提供のためにセラピスト養成も増加の一途をたどってきた。2012 年 4 月現在、有資格者は 6 万人を超え、協会の会員数も 5 万人に届こうかという職能団体に成長した。しかしながら、少子化の影響が養成校(特に専門学校)の学生確保は今厳しい状況になっている。前述した「数の力」を立法に反映できるのはまさに今で、その反映により今後の作業療法士の社会的地位向上が望める。そしてそこから「なりたい職業」としての作業療法士の知名度の向上も望めるのではない。

その人の生活を支え、人生を支える作業療法は、生活を科学的に捉え解釈し、QOL 実現のプログラムを実施する仕事であり人間生活には欠かせない専門職種である。高齢化社会における地域・在宅でのニーズに応えるためにも、養成校での定員確保のためにも、政治力の向上という作業療法士が目向けるべき新たな展開の必要性を強く感じる。現場のサービスも教育も、「質」が問われる時代である。良質のサービスを必要としている方々に提供するために、臨床、教育、社会的地位といった我々を取り巻く因子が効率的に結びつくためにも、これからは政治(立法)に積極的に働きかけるべきである。



監事 谷合義旦

# 連盟活動報告

平成 23 年 6 月 24 日～25 日

第 45 回日本作業療法学会(埼玉)に参加



左から、比留間ちづ子副会長、小林毅氏、谷隆博副会長、二神雅一副会長、土井勝幸幹事、川本愛一郎幹事、座小田孝安幹事



協会名誉会員であり、連盟会員でもある鈴木明子先生にお話を伺いました



## 国政及び地方行政への参画

- ・平成 23 年 9 月 3 日 前衆議院議員柘屋敬悟氏(元厚生労働副大臣)、日本理学療法士連盟山根副会長と次期診療報酬改定について意見交換
- ・平成 23 年 10 月 24 日 衆議院議員山口和之議員、衆議院議員柚木道義議員、三協会長、連盟役員による会合
- ・平成 23 年 11 月 17 日 医療介護ワーキングチーム小委員会が三協会長らからヒアリング実施に至る・平成 23 年 11 月 25 日 再度、前衆議院議員柘屋敬悟氏と訪問看護 7 の問題、訪問リハビリテーションステーション設立、次期診療報酬改正に関して意見交換
- ・平成 23 年 12 月 14 日 民主党医療技術者政策推進議員連盟ヒアリングへ三協会の参加が実現

## 渉外活動(抜粋掲載)

- ・平成 23 年 10 月 25 日 「日本の福祉を考える会 勉強会・懇親会」へ参加
- ・平成 23 年 11 月 16 日 「衆議院議員 柚木道義君の政治活動 10 周年を励ます会」へ参加
- ・平成 24 年 1 月 9 日 「衆議院議員たるとこ伸二を囲む新年祝賀交歓会 2012」へ参加
- ・平成 24 年 1 月 22 日 「参議院議員 梅村 聡 出版記念セミナー ～「蘭学医・関寛斎」平成に学ぶ医の魂～」へ参加
- ・平成 24 年 2 月 7 日 「田野瀬 良太郎君と明日の日本を語る会」へ参加
- ・平成 24 年 2 月 25 日 「山口和之君を囲む会」へ参加

平成 24 年 2 月 26 日 日本作業療法士連盟  
定期総会・研修会・懇親会 開催



平成 24 年 定期総会の様子



研修会「リハビリテーションと作業療法士の未来へ」  
衆議院議員・理学療法士 山口和之先生ご講演の様子



懇親会でお言葉を頂いた来賓の方々。左から辻恵衆議院議員、松岡広隆衆議院議員秘書 稲葉通宣様、山口和之衆議院議員